

SSH 第1回サイエンスツアー 美唄市宮島沼 春の渡り鳥観察会

を実施しました（4月24日(水)）。

＜ラムサール条約登録湿地＞である宮島沼へ、
参加希望生徒34名、教員4名にて、『マガンのねぐら入り』を観察してきました。

放課後16時に学校を出発。バス車中で、本校理科教諭の長澤先生と科学部員・有志により、マガンなど渡り鳥の生態や、双眼鏡の使い方について事前講義が実施されました。

前日には約6万羽のマガンが飛来しており、期待に胸を膨らませ現場に少し早めに到着。宮島沼水鳥・湿地センターの展示資料を見て事前学習を行いながら、ねぐら入りを待ちました。18時少し前から、ぼつぼつとマガンたちのねぐら入りが始まりました。実際にねぐら入りするマガンの計数にも挑戦しました。帰り際、雨も降ってきましたが、前日とほぼ同数、約6万羽のねぐら入りを観察することができました。

帰りのバスの中では地元、空知の自然の素晴らしさを長澤先生より熱く解説していただき、地域の自然が支える貴重な渡り鳥の生態観察だけでなく、人と自然の共生（共存・共栄）について考える貴重な機会となりました。



約6万羽のマガンがねぐら入りをしました。



ねぐら入りを待つ観察者たち



行きの車中で、解説・ガイドを行う生徒たち



センター施設内にて、職員の方々と交流

【参加した生徒たちの感想】

1年生の時にも宮島沼へ行ってマガンの観察や講義がありました。2回目なので、更に理解が深まりました。マガンだけでなく、オオハクチョウ・コハクチョウ・ヒシクイやアオサギなども観察することができました。人の近くにいる鳥はマガンではなくヒシクイでした。家に帰って母から野鳥図鑑を借り、長澤先生がバスの中で紹介していたシジュウカラガンや、ハイイロガンなど、何種類かの野鳥を調べて、少し特徴をつかんだ気がします。色々な種類の鳥にもっと出会いたいと思ったし、宮島沼のマガンと農家の方たちについて工夫できそうな点を考えてみたいと思いました。良い経験になりました、ありがとうございました。

今回初めてマガンを見に行きました。事前に約6万5千羽もいるという情報を聞き、正直そんなすごいものなのか？と思っていましたが、実際に観察すると予想以上の迫力があり、本当に参加して良かったと思いました。マガンは宮島沼に集結した後、ロシアの方に飛び立ち、子育てをした後また、日本に戻ってくるということも知ることができて本当に楽しい実習でした。次は宮島沼から、飛び立つところを観察してみたいと思いました。

●●先生が「せっかくSSHの学校にいるんだから」と仰っていたので、今回参加することにしました。天気には恵まれませんでした。普段点々と空を飛んでいる所しか見ない野鳥を間近で見ることができ、とても楽しかったです。沼を埋め尽くすほどのマガンたちが沼の周りを飛んだり泳ぐ姿は、とても迫力があり見に来て良かったと思いました。野鳥の生態についても教えて頂いたり、部活を休んででも参加したかいがありました。

はじめは友達も行くし半分好奇心でこの観察会に参加したけれど、当日にはバス内でも観察に役立つ情報を教えてもらえたり、実際に宮島沼について湿地センターのスタッフさんにマガンの特徴の話聞くことができ、想像以上に勉強になることが多かった。沼に集まるマガンの群れは圧巻だったし、カウンターを用いてマガンを数えるのは難しかったけれど、本当に参加して良かったと思える観察会でした。

自分は何度か宮島沼でマガンの増入りを観察しているが、今回は少しばかり雨にあたったものの、気温は低すぎず観察しやすい状況であった。今回は全体のカウントはできなかったが個体数は多く、近距離でマガンを観察することができたのでよかった。またアオサギやトビも確認できた。このような観察は、継続して行うことが大切だと思うので、またこのような機会があれば積極的に参加していきたいと思います。

普段は観察することのできないマガンを間近で観察できてとてもいい経験になりました。バス車内での宮島沼やその周辺環境についての解説を聞いた時、特に石狩川のことについては驚きました。マガンの観察時はあいにくの曇りで少々見づらかったですが、次から次へとねぐら入りしていく様子、水面につくときの急降下、徐々に沼一杯になっていく様子は、実際に生で見ないと分からない迫力がありました。またいつかの機会に今度はきちんと自分の機材を用意していきたいと思います。

実際のマガンの「ねぐら入り」
映像はこちらから
https://youtu.be/PXXiE3Nwi_U



●宮島沼水鳥・湿地センター

四季折々の宮島沼の自然を楽しみ、地域の自然や農業とのふれあいの場を提供する「体験型」ネイチャーセンター

●ラムサール条約湿地 宮島沼

2002年11月に、「国際的に重要な湿地」として、ラムサール条約に登録。北海道には、ウトナイ湖や釧路湿原など、12箇所のラムサール条約登録湿地がある（全国には33箇所）。ラムサール条約とは、湿地とそこに暮らす生きものを守るための、国際条約です。

本校では冬に東北（宮城県）でも、希望者を募って道外研修を行っており、そこでは、日本最南端でのマガンの増入りを観察することもできます。
※空知での、マガンの見頃は春と秋です。